

交通政策審議会 地域公共交通部会

# 住民の生活を支える 移動手段の確保について

あらかじめ、  
幸せだったらいいな。

幸せ度  
いちばん  
福井県

令和元年9月27日  
福井県知事 杉本 達治

- 1 福井県の公共交通
- 2 広域的な観点からの地域交通の確保
- 3 ふるさと知事ネットワークの緊急提言
- 4 福井県からの提案

# 1 福井県の公共交通

- ( 1 ) 福井県へのアクセス
- ( 2 ) 福井県内の公共交通
- ( 3 ) 県内の公共交通の現状

# (1) 福井県へのアクセス



**大阪から**  
 JR特急 約1時間50分  
 自動車 約2時間40分

**名古屋から**  
 東海道新幹線 約1時間40分  
 自動車 約2時間

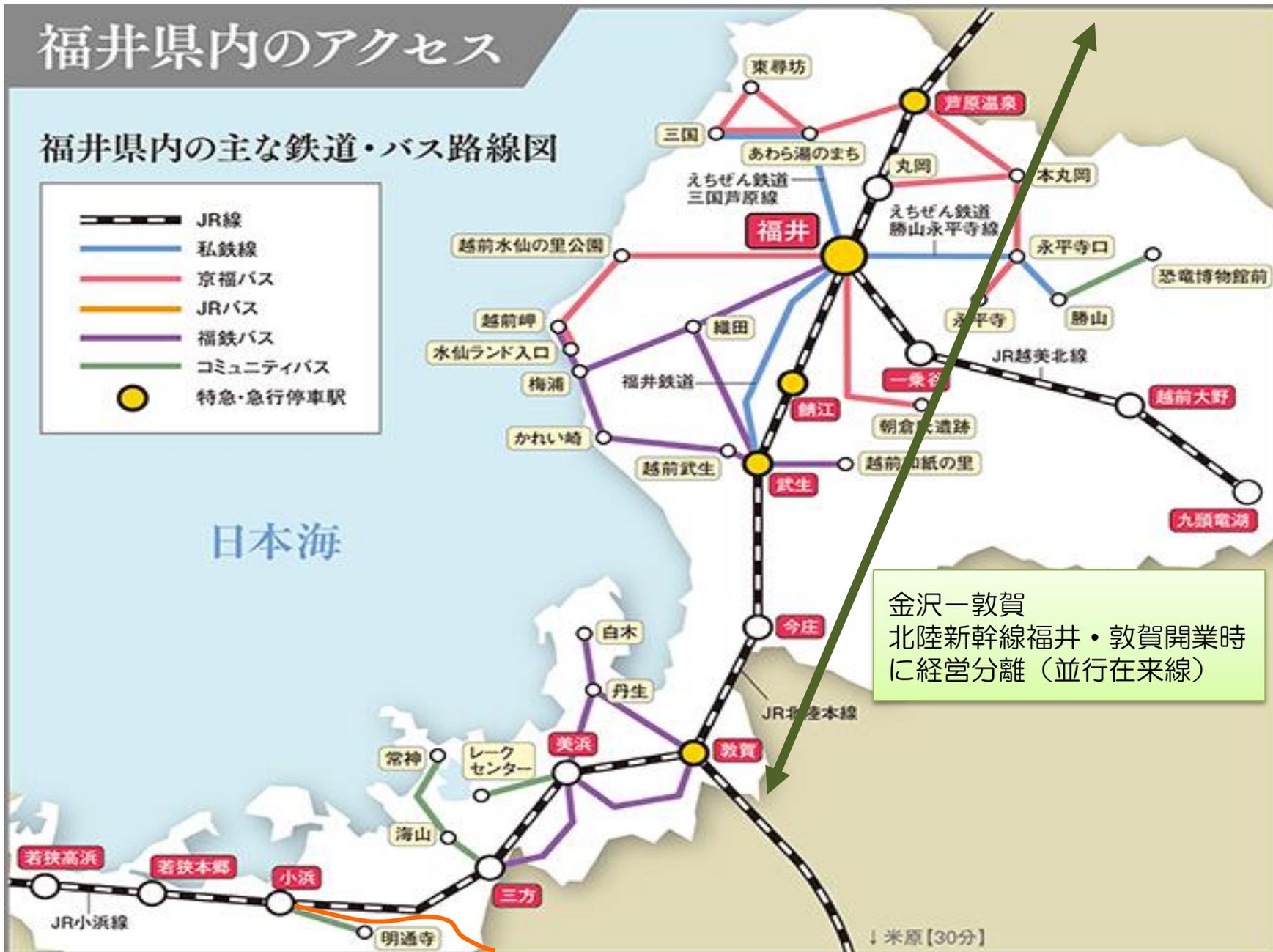
**東京から**  
 北陸新幹線 約3時間20分  
 東海道新幹線 約3時間30分  
 自動車 約5時間30分  
 飛行機 約2時間

## (2)福井県内の公共交通

### 福井県内のアクセス

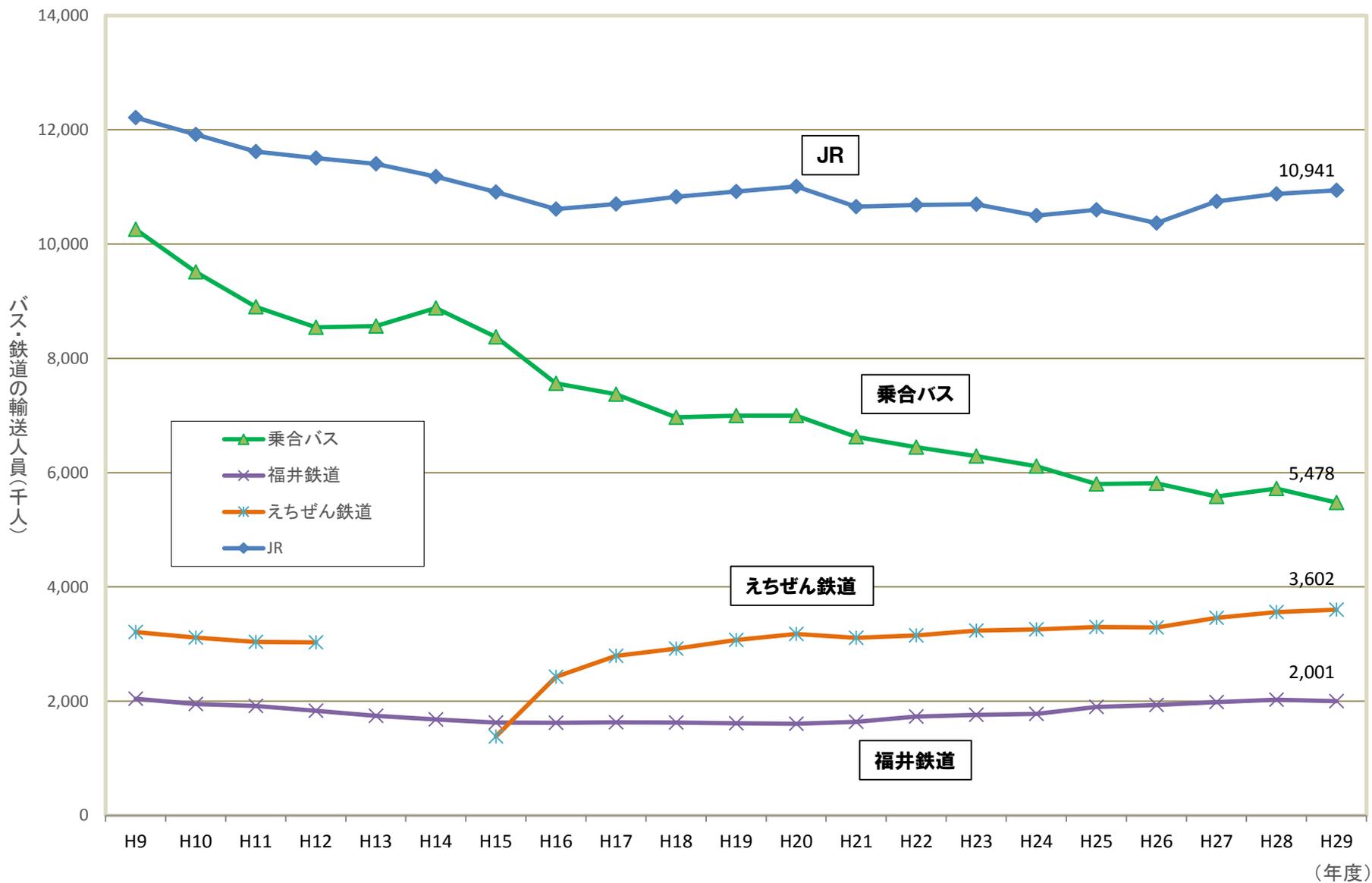
#### 福井県内の主な鉄道・バス路線図

- JR線
- 私鉄線
- 京福バス
- JRバス
- 福鉄バス
- コミュニティバス
- 特急・急行停車駅



# (3) 県内の公共交通の現状

乗合バス・JR・私鉄輸送人員



## 2 広域的な観点からの地域交通の確保

- (1) えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画
- (2) 福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画
- (3) 嶺南地域公共交通網形成計画（策定中）

# (1)えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画

＜目指すべき公共交通の将来像＞「車と比べても『選ばれる移動手段』になる」

「平成27年度から平成33年度までの7年間」

## 【目標と施策】

### 目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現

- ・福井鉄道との相互乗り入れ
- ・鉄道駅の新設、パークアンドライド駐車場の整備
- ・バスロケーションシステムの導入 など

### 目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現

- ・設備や車両の更新
- ・福井駅付近連続立体交差事業 など

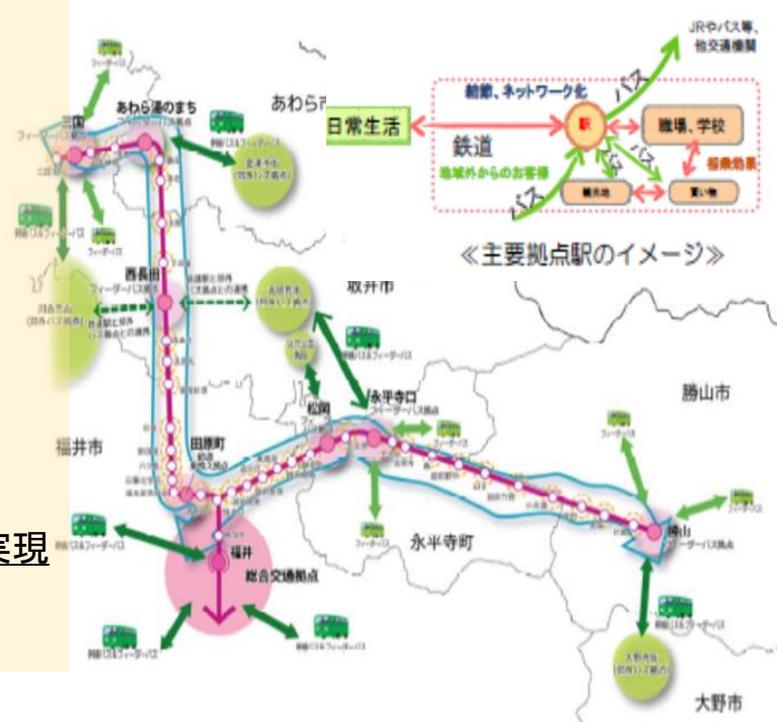
### 目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや

#### 広域観光と連携した公共交通の実現

- ・駅を中心とした居住誘導
- ・企画切符や企画電車の充実
- ・アテンダントによる車内での観光案内 など

### 目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現

- ・モビリティーマネジメント
- ・駅の美化運動など地域住民との連携 など



県と沿線市町(福井市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町)の支援

- ・県：運行再開工事費、資産取得費、設備投資費等
- ・沿線市町：運転・開業資金、維持費等

## 【年間利用者数】

平成16年度 2,424千人  
→ 平成30年度 3,699千人 (約53%増)

# (2)福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画

＜目指すべき公共交通の将来像＞ 「地域に親しまれ共に育む公共交通」

第1期「平成27年度から平成29年度の3年間」

第2期「平成30年度から平成34年度の5年間」

## 【目標と施策】

### 目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現

- ・えちぜん鉄道との相互乗り入れ
- ・パークアンドライド駐車場の整備
- ・駅前電停の移設を含めた福井駅西口駅前交通広場の整備
- ・バスロケーションシステムの導入 など

### 目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現

- ・設備や車両の更新
- ・交通マナー啓発活動 など

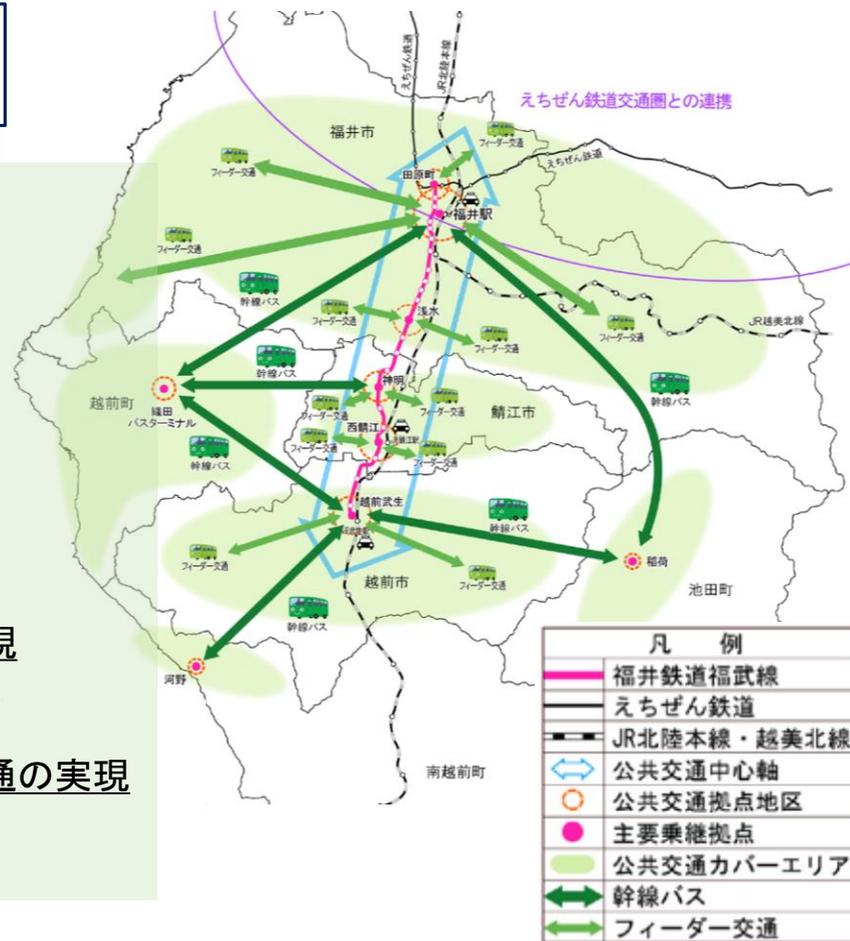
### 目標3 車に頼りすぎない住みやすいまちづくりや

#### 広域観光と連携した公共交通の実現

- ・駅を中心とした居住誘導
- ・企画切符や企画電車の充実 など

### 目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現

- ・モビリティマネジメント
- ・駅の美化運動など地域住民との連携 など



県と沿線市町(福井市、鯖江市、越前市)の支援

- ・県：資産取得費、設備更新費、大規模修繕費等
- ・沿線市：資産取得費、維持修繕費等

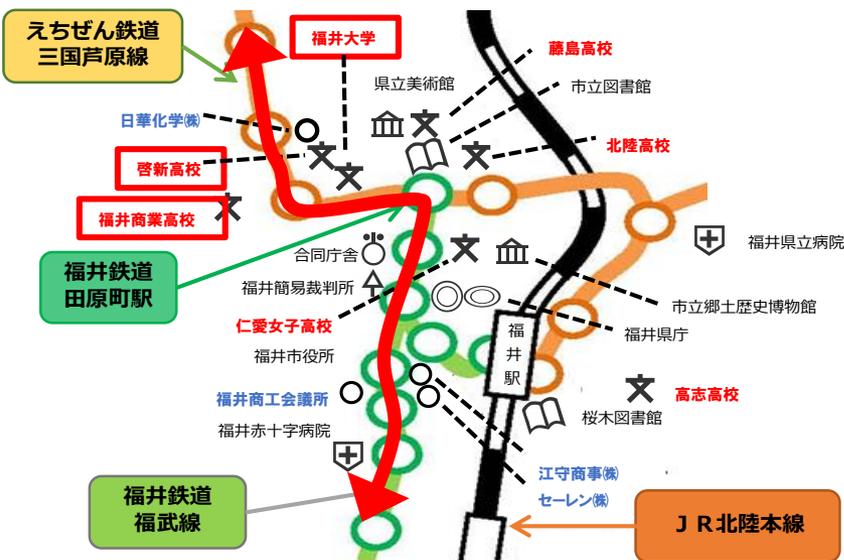
【年間利用者数】

平成16年度 1,621千人

→ 平成30年度 2,043千人 (約26%増)

# 《参考》福井鉄道とえちぜん鉄道の相互乗入れ

## 福井鉄道とえちぜん鉄道の相互乗入れ



・南北の幹線軸沿線には、多くの住宅、学校、公共施設、大手企業が立地

※田原町駅での乗継ぎ利用が、相互乗入れ開始前(27年度)の約**3.2倍**に

## 福井駅西口広場整備、駅前線延伸 (交通結節機能強化)



えち鉄「福井駅」



線路の接続部分



相互乗入れ線と新型車両キーボ



交通結節機能が強化された福井駅西口広場



バスロケーションシステム

# (3) 嶺南地域公共交通網形成計画(策定中)

## ■ 地域特性、計画策定背景

- 嶺南地域は、東は敦賀市、西は高浜町までの2市4町で構成され、東西に約70kmと細長い地形
- 北陸新幹線敦賀開業の効果を最大限に高めるため、エリア全体でJR小浜線を基軸とした交通ネットワークを整備し、利便性を高める必要がある。

今年度中に策定

- 目標 1 将来にわたって地域の足として持続可能な交通ネットワークの構築
- 2 北陸新幹線福井・敦賀開業の効果を嶺南地域全域に波及させるための利便性の高い二次交通の整備

## ■ 検討・実施する施策

### 1 公共交通の利便性向上

- ・ 小浜線の増便や利便性の高いダイヤの設定
- ・ 小浜線の敦賀～京都北部間の時間短縮、運休対策の強化
- ・ 市町を跨ぐ広域バスの運行 等

### 2 まちづくりと連携した施策の展開

- ・ 駅周辺への都市機能、居住誘導
- ・ 待合環境の充実や駅のバリアフリー化 等

### 3 公共交通サービス情報の充実

- ・ 嶺南全域の公共交通マップの作成
- ・ 鉄道、バス、タクシー、レンタサイクル等の一体的な乗り継ぎサービスの提供 等

### 4 観光周遊手段の提供

- ・ 観光列車やイベント列車の運行
- ・ 小浜線とバスを乗り継いだ周遊きっぷの企画 等

### 5 公共交通利用を促進する意識の醸成

- ・ 住民、事業所向けのモビリティマネジメント
- ・ 住民等の鉄道やバス利用を促進する啓発活動 等



### 3 ふるさと知事ネットワークの緊急提言

(1) ふるさと知事ネットワークの概要

(2) ふるさと知事ネットワーク緊急提言の概要

# (1)ふるさと知事ネットワークの概要

- 新しい国づくりに向け「自立と分散・連携」を掲げ、ともに行動する政策集団
- 地方の13県が「Local and Local」でつながり、「地方知」を結集
- 地方の課題について知事が集まり議論

## 『地方から日本を変える政策集団』

新しいふるさとの創造に向けて、「自立と分散・連携」を掲げ、政策のイノベーションを進めるとともに、そのために必要な政策の転換を国に積極的に提言するため、共に行動する政策集団です。

地方同士が『Local and Local』でつながり『地方知 (Local knowledge)』を結集します

参加県：青森県、山形県、石川県、福井県、山梨県、長野県、滋賀県、奈良県、鳥取県、島根県、高知県、宮崎県、鹿児島県の13県



## ◆昨年度からの活動

- ・ 昨年度、「地域交通の維持・確保」について議論し、国に対し要請活動を実施
- ・ 国では「地域交通フォローアップ・イノベーション検討会」を設置し、委員として福井県が参加
- ・ 今年8月の知事会合で、国から「検討会」の提言について報告

## (2)ふるさと知事ネットワーク緊急提言の概要

### 「地域交通の維持・確保に向けた緊急提言」

8月22日に鹿児島県で開催した知事会合における議論を踏まえ、「緊急提言」を取りまとめ

日 時：令和元年9月10日（火）

場 所：国土交通省

提言先：藤田 耕三 国土交通事務次官

#### ◆提言内容

- (1) 国民の移動手段を守る政策の推進
- (2) 地域の関係者の合意に基づく取組みの推進
- (3) 地方の実情を踏まえた制度設計
- (4) 高齢者の運転免許証の自主返納への支援
- (5) 地域交通の利便性向上
- (6) 運転手の確保・育成
- (7) 観光と連携した地域交通の活性化
- (8) 新技術開発、新しいサービスの導入
- (9) 地域交通に対する持続可能な支援に向けた検討



# 提言内容抜粋(地方の実情を踏まえた制度設計①)

中山間地域における移動手段を確保するため、生活に欠かせない路線について補助基準を緩和すること

## 現行の補助スキーム (地域公共交通確保維持改善事業費補助金)

乗合バス路線への国庫補助は、1便当たりの乗車人数が少ない(5人未満)と一律減額されるが、中山間地域においては、便数が減らせる限界に達している路線もある。



例えば、中山間地域で1日に5便運行  
(4人×5便=20人)



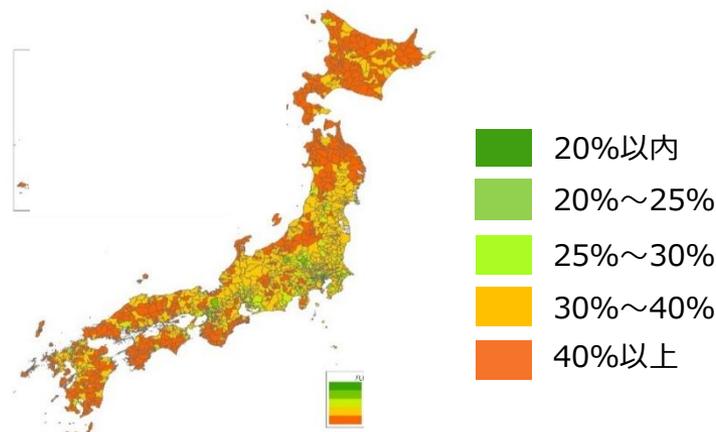
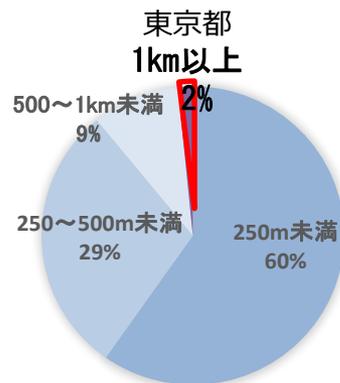
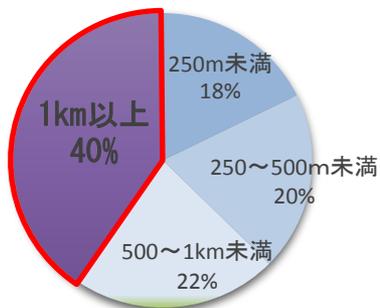
4便分の補助しか出ない  
(20人なら4便で十分とみなされる)

**現状** 地方圏では医療機関や店舗が徒歩圏内になく、高齢者にとってバスは不可欠

① 地方圏では医療機関まで遠い高齢者が多い

② 店舗まで徒歩で行けない高齢者は地方圏(中山間地域)に多い

75歳以上がいる世帯から医療機関までの距離  
ふるさと知事NW13県平均



# 提言内容抜粋(地方の実情を踏まえた制度設計②)

機動的なサービスを提供できるタクシー事業について、地域交通の担い手として位置づけるとともに、各自治体が行う乗用タクシーを活用した取組みについて制度整備を行うこと

## タクシーを活用した地域交通の取組事例(山形県南陽市)

- 地区アンケートに基づく実証実験として、平成30年末の一か月間実施
- 特定の地区の高齢者(60歳以上)に限定(事前登録制)
- 自宅から指定された施設等の目的地まで「片道500円」で差額を市で負担

- ✓ デマンド交通の導入と同様の効果
- ✓ 地元のタクシー事業者の負担も少ない
- ✓ 二種免許によるプロフェッショナルなサービス提供

自治体・住民・事業者**全てに好評のため、普及させたい**と思っても。。。



## 地域交通事業者及び自治体への政府の支援

	政府の補助メニュー	自治体負担の特別交付税措置
乗合バス	あり	あり
コミュバス・デマンド交通	あり	あり
乗用タクシー	なし	なし

乗用タクシーを地域交通に活用するための**政府支援が存在せず、自治体負担が重過ぎる!**

## 4 福井県からの提案

- (1) 福井県の取組み・課題
- (2) 住民によるバスの運行
- (3) 移動手段の確保を軸とした生活支援の充実
- (4) 福井県からの提案内容

# (1)福井県の取組み・課題

## 《県民の移動手段確保》

○市町間を結ぶ路線に加え、地域住民の移動手段の確保を図るため、市町の実情に応じた取組みを財政的に支援

他県と比較して手厚い支援⇒コミバス等に約3億円

広域路線



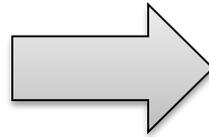
市町コミバス  
乗合タクシー



## 《社会情勢の変化》

○人口減少社会の到来

○クルマ社会の進展



## 《問題の顕在化》

- ・バス利用者の減少
- ・運転手不足
- ・高齢者の交通事故の増加
- ・運転免許証返納後の移動手段の確保



## 《現状》

- ・路線バスの撤退や運転ができない高齢者の点在化
- ・コミバスや乗合タクシーでは対応できない地域が出現
- ・事業者に頼らず住民自らによる移動手段の確保 (取組事例) 池田町「のってこ」  
高浜町「内浦ぐるりんバス」

## (2)住民によるバスの運行

### 池田町 町民協働バス「マイバス事業」

#### ◆概要

・池田町と福井市を結んでいた京福バス池田線が平成31年3月末で廃線となり、池田町民の移動手段を確保するため、

4月から「町民協働バス」愛称「のってこ」を運行

《運行主体》池田町

《運転手》池田町民

《使用車両》町所有のワゴン車（利用定員：9人）

《運行ルート》

池田町 — JR福井駅東口、済生会病院

《便数》平日：4便

土日祝日：3便 ※一部デマンド

《運賃》大人（中学生以上）：1,000円

小学生：500円

小学生未満：無料

※片道の運賃。障がい者は半額。町民割引あり



### 高浜町 「内浦ぐるりんバス事業」

#### ◆概要

・令和元年10月から、内浦地区と舞鶴市内を結ぶ自家用有償旅客運送「内浦ぐるりんバス」を運行

《運行主体》（一社）内浦ぐるりん倶楽部

《運転手》内浦地区住民

《使用車両》町が無償貸与するワゴン車（利用定員：9人）

《運行ルート》

高浜町 上瀬・神野浦・音海 — 東舞鶴駅、舞鶴共済病院、スーパー

《便数》平日：3便（毎週2日のみ運行）

※他にスーパーで折り返す便（木曜1便）あり

《運賃》個人の料金支払い不要

（町の補助、区費等の地元負担で運行）



# (3) 移動手段の確保を軸とした生活支援の充実

## 今後の展開

今後、公共交通サービスが不十分な地域において、近隣の住民による支え合いによる移動手段の確保が進展

移動手段の確保を軸に、買い物支援や配食・配達（貨客混載）サービス等を複合的に実施

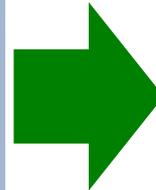


## (4)福井県からの提案内容

### ◆住民の移動手段を守ることに光を当てた施策が必要

#### 地方の実情

- 交通事業者のみならず、地域住民やNPOが地域交通の担い手として活躍
- 都会と違い地方の路線は、利用者・便数が少ない
- 乗合だけでなく、乗用タクシーも移動手段として活用



これまでの制度・発想から転換した柔軟な対応

#### ◆地方が活用しやすい支援制度

- ・運行主体にとらわれない支援制度
- ・全国一律ではなく、地方の実情に応じた補助基準
- ・包括的な支援制度の創設

※支援の拡充に合わせた財源の確保が必要